

「令和元年度第1回座間市総合教育会議」会議録

1 日 時 令和元年10月1日（火） 午前11時00分～11時40分

2 場 所 市民文化会館（ハーモニーホール座間）大会議室

3 構成員

遠藤市長、木島教育長、鈴木教育長職務代理者、天野教育委員、小井田教育委員、馬場教育委員

4 事務局及び教育委員会職員

企画財政部長、企画政策課長、企画政策係長、企画政策係主任、教育部長、教育総務課長、庶務経理係長、施設係長、学校教育課長、保健給食担当課長、教育指導課長、教育研究所長、生涯学習課長、図書館長

5 傍聴人 14人

6 議 題

<協議・調整事項>

学校施設の目指すべき姿について

7 会議録

（企画政策課長）

ただいまから「令和元年度第1回座間市総合教育会議」を開催します。

お手元の会議次第に基づき、次第の2、本日の案件ですが、協議・調整事項が1件、内容は、「学校施設の目指すべき姿について」です。

本会議は、座間市総合教育会議設置要綱第3条の規定により、市長が議長になることとしていきますので、以後の進行は市長にお願いします。

（市長）

それでは、会議を進行させていただきたいと思いますが、その前にまず一言、挨拶させていただきたいと思います。

本日は御多忙の中、「令和元年度第1回座間市総合教育会議」に御出席いただきまして誠にありがとうございます。

これまでを振り返ると、昨年度は、「第2期座間市教育大綱」改訂の年でした。教育大綱の改訂は、パブリックコメントを実施し、合計3回の総合教育会議において、委員の皆様と協議を重ね、また、協議に当たっては、各学校現場の先生方のお考えや様々な方々のお考えを教育委員会の皆様がお自身で聴取をし、反映するという非常に丹念な対応を取っていただき、まさに市の総意の下、教育大綱を改訂することができたと思います。改めて、感謝申し上げます。

また、日頃から本市の教育行政のため、陰に陽に御尽力、御指導くださっていることに、改めて深く感謝申し上げます。

この総合教育会議は、教育委員会の制度の改正に従い、首長と教育委員会が同じ方向性の下、相互に連携して効果的に教育行政を推進していくために、協議、調整を行う場として設置しています。

本日の案件も、委員の皆様の率直なお考えや、本市の考え方に対する感想を承りたいと思います。

早速ですが、本日上程させていただきました案件(1)協議、調整事項「学校施設の目指すべき姿」について、進めさせていただきたいと思います。本案件について、上程させていただいた経過も含め、私から説明します。

御存知のとおり、我が国も終戦から74年が経ち、この間に高度成長を遂げ、本市においても地域の有様が大きく変動しました。現在では人口が13万1千人になろうとする、17.57平方キロメートルという小さな街に多くの方が全国各地から集まり、お住まいになる、そんな街として発展してきました。

そうした中で、特にこの一連の流れの中で、本市はその発展段階に応じて先人達が公共施設を整備してきて、築き上げた公共施設、公共インフラ、このレガシーの下に、現在、市民の生活が成り立っています。

一方で、本市だけでなく、我が国全体で公共施設、公共インフラの老朽化、そして次の時代に更新していくという大きなテーマが顕在化してきて、これを踏まえて将来を見据えた政策を打っていく必要があります。この全国共通の課題に向けて、取組を進めていくわけですが、本市においては、平成25年3月に「座間市公共施設白書」を作成し、公共施設の資産価値や運営状況などの現状を明らかにするとともに、今後の課題を整理しました。この際にも、教育委員会の事務局にもお骨折りをいただき、特に、座間市の公共施設のおおよそ半分を占める学校施設の現状についても、自らの力で、自らの成し方で、現状を把握し、白書の中に編み込むこともしていただきました。

その後の平成27年3月には、「座間市公共施設利活用指針」、そして、翌平成28年3月には「座間市アセットマネジメント基本方針」を策定し、本市の公共施設の今後の方向性を示し、良質な公共施設を後世に伝えるために着実に準備を進めてきたところです。

そして、本年度は、本市における公共施設の再整備計画の検討を深め、これまで取りまとめた

きた再整備計画案について、市民に対しても意見の聴取、公表を行いつつあります。

その中において、先ほどお話したように、本市における公共施設の多くを占める学校施設、及び社会教育施設、教育委員会所管の施設については、当然今後の座間市の教育の在り方というものと大きく関わってくる部分があります。教育委員会所管の施設以外について、計画の形が見えてきた中で、学校施設、加えて社会教育施設の在り方についても、皆様のお考えをお聞きしたいと思っています。

教育委員会の事務局、教育部においては、文部科学省や国からの指導によって、学校施設の長寿命化計画の策定をするということで、これまで、取組を進めてきていただきました。当然これについては、教育委員会としてのお考えが籠もっていると、私は受け止めています。こうした内容と市長部局で進めている全体の公共施設の再整備とを整合させ、全体の取りまとめをしながら、歩調を合わせてやっていく必要がある、そういう段階に至っていると考えています。

そんな中で、改めて、これまで編んできた学校施設の長寿命化計画を踏まえながら、今後の本市の教育の在り方に沿った学校施設の目指すべき姿について、委員の皆様のお考えを聞き、その方針を受け止めさせていただいた中で、市全体の公共施設の再整備計画を編んでいきたいと考えています。

以上から、本日は皆様の忌憚のないお考え、御意見をお聞きしたいと思います。

どなたか御発言をお願いします。

(委員)

御説明、ありがとうございました。事前に長寿命化計画、概要版ということで目を通しました。今回の再整備計画はこれまで多くの部署が長い時間を掛け、練りに練って計画が立てられただけあり、将来の座間市の状況に沿った、現段階ではベストの計画であると受け止めています。

その中で、学校施設の目指すべき姿ということで、私が望んでいることは、学校施設の役割、ここに最大限に合致したものを望みたいと思っています。特に、子供の学習、生活の場に相応しい、より良い教育環境を提供できるものであるということ。また、現在盛んにコミュニティスクールが強く要求されていますが、地域コミュニティ、つまり地域の中の学校であって欲しいということ。そして、命を守る場であるということ。子供からお年寄りまで、地域の皆さんにとって安心安全な場であるという、信頼を勝ち得るような場であって欲しいということです。

私は学校現場から参りましたので、その立場から少しお話をさせていただきます。教員時代に、私の戒めの言葉として持っていたものです。当たり前のような言葉ですが、中々厳しいものもあります。子供に、いかにより良い教育環境を与えることができるかということ。それは教育に携わる者全ての重要な責務です。例えば、ハード面だけではなく、私は学校現場に居ましたので、ソフト面というところで、それは重く押し掛かってきました。教育課程、授業の内容、教材、資料、特に一番大きいのは、教員としての資質、指導力、その辺りが重要な要素になってくると思

います。子供は本来伸びる芽を持っており、それを伸ばすだけの力も持っている。しかし、そこには土壌が必要、その土壌作りこそ大人の役割です。このように言ってしまうと非常に簡単なのですが、そのために学校も行政も日々頭を痛くし、最大限努力を払っていただいています。本当にいつもありがとうございます。

また、話は少し飛びますが、一昨日スマーナ市との国際親善大使の任命式に参列しましたので、そのことについて話をさせてください。座間市の小中学生も、子供たちがこのような体験をさせてもらえるような時代になったと、この素晴らしい事業に感激しています。小さな大使たちは、緊張感と不安の中、頑張ろうという気持ちがみなぎっている、それが伝わってきました。その時に、前の第1期の親善大使のことを思い出しました。素晴らしい活躍、何よりも個々の成長がこの体験で得られたということ、これが心に刻まれています。今回の大使たちも、そのような姿を見せてくれるのではないかと大いに期待し、楽しみにしています。

ところで、今回そのチャレンジ、子供たちがチャレンジに至るまでには、似たような場が必ずあったはずで。その時に、楽しかったとか、喜びとか、充実感、満足感、憧れというものが心に刷り込まれたのではないかと、そして、今回のチャレンジに至ったのではないかと思います。

一つの良い学びの場があって、そこで得られたものが次のステップアップにつながり、次のステージが更に広がっていくという、これは良い教育環境の成せる業だと、思いました。教育環境というのは、そういうものです。相乗効果として、良い効果だけでなく、悪い効果もあるわけです。教育環境の凄さ、逆に怖さというものも感じながら、これから教育に携わっていかなくてはいけないと強く思った次第です。

少し脇道に逸れましたが、子供からお年寄りまで、利用者がプラスになるような再整備計画がこれから進められていくことを望んでいますし、大いに期待しています。

(市長)

ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

(委員)

私は8月に公共施設再整備計画の市民シンポジウムに参加しました。千葉工業大学の先生のお話を聞く中で、公共施設の延床面積の約半分が学校であるということ、50%という数字を聞かされた時に、学校の占める割合の多さを改めて感じました。

少子高齢化の中で、どんどん子供たちが減っていき、学校が老朽化していく中で、このままではいけないと誰もが感じる場所であり、今後は、学校の統廃合や学区の見直しなどがあるのではないかと想像もつきます。しかし、学校というものに対して、地域住民の思い入れや、卒業生、保護者の皆様も、そこには思い出がたくさんありますから、強い思い入れもあると思うの

で、このようなシンポジウムを何度も開きながら、市民全体で学校の再編を考えていかなければいけないと思いました。

限られた財源の中で、今後の建替えもあると思います。まだ先にはなりますが、日中ほとんどの時間を学校という施設で児童生徒が過ごすわけなので、ストレスを緩和できるような場とか、そういったものを考えながら、また明るく捉えながら、みんなで考えていかなければならないと思いました。

(市長)

ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

(委員)

先月、小、中学校の運動会を見させていただき、この数年間で、感じていることは、児童・生徒数が少なくて寂しいということです。また、前任の教育長が、少子化、そして児童・生徒数の減少、こういったことから、学校再編計画を教育委員会として考えていく必要がある、それには、考え方や計画等をしっかり持ってやっていくこと、それを市長部局と連携、調整していくということをやらなければいけないとおっしゃっていたので、今度の計画を聞いて、やっと始まったというような、そういう感じを抱きました。

まだ、具体的なものは出ていないので何とも言えないですが、胸を張って座間の将来、又は日本の将来、双方にとって素晴らしい魅力のある学校施設の再編を実施していただきたいです。

(市長)

ありがとうございます。

それでは、次の委員をお願いします。

(委員)

3人の委員が良い意見を言っていたので、私としては特に発言することはないです。とにかく、ある意味で、市長部局は市長が全て統括されているわけですが、そちらの計画に私たちも大賛成でして、できるだけ地域の方々や保護者の意見も聞きながら、齟齬のないように進めていただければ、それで十分だと思っています。

根底には、教育大綱や、ひまわりプランで示されているような、子供たちがよく育ち、目的を持ち、最終的には座間を愛する人たちが育つような、そんなプランは現在も実行されつつあるし、これからも実行されていくと思います。

それに沿って、私共も教育委員会として意見を言わせてもらい、既にいくつか言いましたし、

それを取り込んでくれた形で、しっかりしたプランを立ててくれています。それもあり、ある意味で教育委員会としても、非常に市長部局でまとめてくれている、信頼しているということをお願いしたいと思います。

(市長)

ありがとうございました。
教育長いかがですか。

(教育長)

市長に総合教育会議を開いてもらい、そして投げ掛けをもらい、計画の策定プロセスを大切にしてもらっていることに、まず感謝をしたいと思います。

学校施設については、私はシンポジウムにも出席しましたが、少子化とか施設の老朽化、統廃合など、どちらかという将来にわたって暗いイメージを持ちがちですが、話にもあったとおり、未来、夢、希望というような視点で施設整備を検討していけたらいいと思っています。

教育に関しては、いろいろな問題点がありますし、新たな教育課題がたくさんあります。例えば、少人数学級、少人数指導、小中連携、一貫教育の推進、義務教育学校、インクルーシブ、ICTなどいろいろありますが、新たな教育的課題に対応するために、今後、本日傍聴されている小、中学校の校長先生ともお話をさせていただきながら、しっかり検討していきたいと考えています。また、その中で、市全体の再整備と歩調を合わせていくような形をとりたいと考えています。

(市長)

それぞれから貴重な御意見を頂きました。
さらに発言したいことがあればどうぞ。

特によろしければ、私の方でまとめさせていただければと思うのですが、委員の皆様のを聞き、私も非常に有り難いなという思いで一杯です。と言うのも、私も現在この立場に居る中で、昭和40、50年代当時に、先人たちが大変な苦勞をしながら、特に学校施設について、新しい学校を開き、そして校舎の増設をし、必要な施設整備を行うということ、本当に間断なくやってこられたわけです。

ところが、よく例えに出すのですが、平成の30年間というものを挟んだ中で、昭和の時代と令和の新しい元号の下で御世が始まりましたが、この30年間の間に世の中は大きく変容していたのだと、最近痛感します。特に家庭教育の在り方、学校教育の在り方についても、教育長から個別にいろいろと例示をしてもらいましたが、先ほどほかの委員からも発言があったように、ス

マーナとの関係のような、国際親善大使事業というのも、グローバル化という中で、おそらく昭和の頃には考えもしなかった事業ではないかと思います。ましてや小学校において、英語が教科化というようなことになるとは、想定外だったと思います。残念ながら、現在、私たちが持っている学校の施設は、その当時の文部省の示す施設整備に沿って成してきたものであるわけで、1年、2年と老朽化もしてきます。また本日、今日校長先生も傍聴に来ていただいています。現在持っている施設を一生懸命活用していただきながら、現状の教育に対応させていくという創意工夫をしていただいていると思っています。

いずれは、老朽化し、建替をしていかなければならないという時期が来るのであれば、現在、私共が担っている義務教育課程における教育の在り方、加えて、私どもの街の地域社会の変容というものも受け止めながら、総合的な考え方に立った上で、50年、100年先を見据えた教育環境のハード面の整備についても執り行なっていく必要があると思っています。

本日は、率直な御意見をいただきましたが、今後も機会を捉えて、皆様の御意見、特に現場のお考えが大切だと思っています。

この計画は、そうしたものを取り入れながら、市が公共施設の再整備計画という大きな括りを取りまとめをしていきますが、その中における学校施設、そして社会教育施設について、しっかりと皆様のコンセンサスを取り込んでいけるような対応を取りながら、行っていきたいと思しますので、了解をもらいたいと思っています。

本日は大変貴重な御意見を頂き、ありがとうございます。

この件に関しましては、ここまでとさせていただき、本日は以上になりますが、その他について何かありましたら、御提案いただきたいと思います。いかがでしょうか。

〈※特になしの声〉

(市長)

よろしければ、進行を事務局に返したいと思います。

(企画政策課長)

本日は御多用の中、御協議いただき、ありがとうございました。

以上で、「令和元年度第1回座間市総合教育会議」を閉会します。お疲れ様でした。